

令和6年度 福井大学教育学部附属特別支援学校 スクールプラン

| |
|---|
| <p>家庭との連携 一人一人の家庭生活の充実と生きる力（自立と社会参加）を育む教育の充実</p> |
| <p>地域への期待・インクルーシブ教育 多様な人たちが、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合っていく社会の実現</p> |
| <p>福井大学第4期（R4～R9）中期目標・中期計画に基づいた教育実践の実現</p> |

| |
|---|
| <p>〈本校の使命〉 ○知的障害教育校としての使命 ○教育実習校としての使命 ○研究開発校としての使命 ○教員研修校としての使命</p> |
| <p>〈本校の教育方針〉 一人一人に合わせた教育 小・中・高一貫した教育 関係機関と連携した教育 〈本校の教育目標〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ●心身共に健やかな子を育てる ●生活に必要な基礎的能力を養う ●はたらく喜びをもつ子を育てる |

| |
|---|
| <p>本校研究テーマ 「一人一人の学びが深まるカリキュラム・マネジメント」 （4年計画4年次） ～日々の活動や学校生活を、子ども共に創る～</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態やニーズ、思いを大切にしたい設定と活動づくり（事例研究・学部研究会・全体研究会） ・子どもの学びを捉える実践記録の作成（個別プラン・研究紀要・学部研究会・全体研究会） |
| <p>※11月…全日本特別支援教育研究連盟全国大会の発表 ※1月…教育研究会（公開研）の実施</p> |

| 重点目標 | 1 教育課程・生活教育 | 2 生徒指導・保健教育 | 3 進路指導・キャリア教育 | 4 教育相談・センター的機能 | 5 地域交流 | 6 インクルーシブ教育 | 7 働き方改革 |
|---------|--|--|--|---|---|---|--|
| | <p>個のニーズと学びのつながり、子どもの思いを意識した活動づくりを通して、教育課程を検討する。</p> | <p>児童生徒の実態に応じた安全教育・情報教育の充実を図る。 栄養教諭と連携し、食育を行う。 個のニーズに合わせた、性に関する指導を行う。 「からころ教室」をニーズに合わせて実施し、内容の充実を図る。</p> | <p>段階的な進路指導・キャリア教育を推進する。 児童生徒・保護者の意思決定支援の充実を図る。</p> | <p>児童生徒の教育的ニーズに合わせて「おしゃべりタイム(心の相談会)」を実施し、内容の充実を図る。</p> | <p>交流相手と連携して内容等を検討し、児童生徒が地域の人と直接、または間接的に関わる活動を設定する。</p> | <p>インクルーシブ教育における本校の役割について、教職員の共通理解を図る。</p> | <p>互いを思いやり、健康に働ける職場をつくる。</p> |
| 全体 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学の助言者、研究協力者と連携した児童生徒の学びがつながる活動づくり。 ・事例研究を通した学部内・学部間のつながりの検討。 ・子どもの育ちや学びを的確に捉えられるような実態把握、個別プランの項立てや内容の検討。 ・実践記録の形式検討。 ・年度始めに個別プランの書き方についての研修会を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の様子や児童生徒の振り返りなどを載せたお便りの配布やHPでの情報発信。 ・児童生徒の実態に応じた情報教育の実施。 ・児童生徒の実態に応じた食育、保健教育(特に、性に関する指導)の実施。 ・「からころ教室」を希望に応じて実施する。実施後の記録や校医からの助言を、個々の教育活動に生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者のニーズに応じた進路に関する情報を得られる場の設定と充実(見学会や学習会等)。 ・附属版キャリアプランニングマトリクスの活用。 ・進路相談や体験実習の時期や方法の検討(中・高)。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒個々の教育的ニーズに合わせて「おしゃべりタイム」の実施。(一人1回以上、事前の保護者の意向聴取) ・実施後に記録や学部での報告を行い、個々の教育活動に生かす。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動と関連付けられた交流活動の実施。 ・交流相手と互いのニーズに応じた方法や内容について検討し、交流を実施(直接交流、オンライン、手紙、作品交流など)。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本校におけるインクルーシブ教育(地域交流を通して)についての検討(授業づくりday等)。 | <ul style="list-style-type: none"> ・職員同士が働きやすさを意識した声かけをし合う。 ・17:00以降は会議を設けない。 ・会議は90分を超えない。 ・超過勤務は、月40時間を超えない。 |
| 具体的取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ・児童のニーズと小学部6年間の学びのつながりを意識した教育課程の検討。 ・子どもが安心感を持って活動できるように、「遊び」を中心にして「好き」から学びをひろげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全、清潔、疾病予防、情報機器の扱い方について、連絡帳や学部だより等を通じた保護者との情報共有。 ・身辺自立を促す食育や保健教育の実施。 ・希望者に「からころ教室」を実施し、健康課題の把握を丁寧に行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・個々のキャリア発達を意識した実態の把握とねらいの設定に基づいた活動づくり。 ・児童や保護者のニーズに応じた進路に関する情報発信。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「おしゃべりタイム」を一人1回程度実施し、遊び等を取り入れた教師と一対一で話しやすい雰囲気づくりを行う。 ・記録や報告を学部会や回覧で共有することで、児童理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのニーズに応じて居住地校、附属学園、地域の人々との交流を実施。 ・相手校園との情報共有や実態に応じた交流の実施。 | | |
| 中学部 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズや、小から中、中から高への学びのつながりを意識した活動づくりや教育課程の検討。 ・生徒が主体的に学び、自分らしく活動できるように生徒の思いや友達との協働を大切に「ゆうゆうタイム」、「グループくらし」を中心に学びをつなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育について生活ノートや学部通信等を通じた家庭への発信。 ・ニーズや実態に応じた情報機器活用に関する学習の実施。 ・「からころ教室」実施後の記録・回覧を行い、生徒理解を深める。 ・ニーズや実態に応じた、小グループや個別での保健教育、食育の実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・次の学年での活動を具体的にイメージし、個々のキャリア発達を意識した活動づくり。 ・生徒自身が主体的に進路を考えるための、事業所見学や体験実習報告会の実施。 ・生徒のニーズに応じた体験実習の時期や方法の検討。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「おしゃべりタイム週間」を設定し、安心して話せる方法を工夫することで、一人1回以上、必要に応じて複数回実施。 ・実施後の記録や回覧、報告を速やかにを行い、生徒理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃の教育活動を通じた居住地校、近隣の学校、施設等との交流の実施。 ・交流相手と情報を共有し、実態に応じた交流を実施。 | | |
| 高等部 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズや中から高への学びのつながりを意識した活動づくりや教育課程の検討。 ・現在及び将来について、自分事に考え、主体的に活動できるように、「仕事」「生活」「実習」を中心に学びをつなげる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた避難訓練の事前、事後学習の実施と家庭への発信。 ・生徒の実態に応じた情報機器の活用や安全な使用方法・危険性に関する学習の実施。 ・生徒の実態に応じて「からころタイム」を定期的実施。 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を具体的にイメージし、個々のキャリア発達を意識した活動づくり。 ・実習後の振り返り等、生徒自身が主体的に進路を考えるための支援。 ・生徒のニーズに応じた進路相談や体験実習の時期や方法の検討。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「おしゃべりタイム」を一人1回以上、必要に応じて複数回実施(ニーズに合わせて他学部の教員や専門機関等を活用する)。 ・記録の回覧や学部会での報告などを行い、生徒理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・制作活動を通じた他校や企業、地域の人々との交流の実施。 ・互いのニーズに応じた方法で交流を実施。 | | |